

授業概要

インフレーションやデフレーションは解決されるべき社会問題である。課題解決のために議論すべきは「一国の経済活動の水準がどの水準にあることが望ましいのか」という問題であり、マクロ経済理論が現実社会を理解するのに、特に経済政策の目的とその効果を考察するのに有効であることを理解できるよう講義する。特に学生諸君には自分の課題として受け止めてもらい、一国の経済活動についての理論分析とデータに基づいた正しい認識を持てるようにしたい。またこの講義を通じて、私たちが目指すべき望ましい国民経済とは何かについて考えたい。このような問題意識の下、この講義が、学生諸君にとって考える切っ掛けとなるように講義を進めていきたい。

授業計画

第1回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第2回	国民所得の概念(1) GDPとNDP
第3回	国民所得の概念(2) GNIとNI
第4回	三面等価の法則
第5回	家計の消費行動 消費行動の特定化
第6回	総需要線 家計、企業、および政府の支出
第7回	総供給線 生産的側面と労働的側面 バイト代の行方
第8回	国民所得水準の決定 総需要と総供給の均衡 45度線モデルと完全雇用国民所得
第9回	国民所得水準の管理(1) デフレーション・ギャップ
第10回	解決されるべき社会問題 失業問題
第11回	国民所得水準の管理(2) 乗数理論
第12回	乗数理論 経済の自己増殖過程
第13回	国民所得水準の管理(3) インフレーション・ギャップ
第14回	解決されるべき社会問題 インフレーション問題
第15回	国民所得水準の管理(4) 国民経済の貨幣的側面 貨幣数量説
第16回	期末試験 筆記試験の実施

到達目標

経済学の考え方、分析手法、論理体系を学ぶことで、政策目標となる完全雇用国民所得水準について考えることを通じて、最終的には学生個人が一人の社会人としての見識を持ち、政策を批判的に考察できる。

履修上の注意

この授業は、PBL (Project Based Learning) を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の講義を行う。また、事前的に経済学の知識は必要なく、必要に応じてその都度経済学の考え方を紹介する。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

予習復習

第10回の失業問題と第14回のインフレーション問題に関連して、世界恐慌やハイパーインフレーションの事例について事前に調べておくこと。講義で描いた図が何を表しているのかを講義後にまとめること。

評価方法

期末試験としての筆記試験 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。